

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立下条小学校 (※正式名称を記載)

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒440-0002

愛知県豊橋市下条東町字西浦41番地

E-mail gejo-e@toyohashi.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 35 名 女子 42 名 合計 77 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「知、徳、体、食の調和のとれた、豊かな人間性と活力に満ちた『下条っ子』の育成」を学校理念として、ESDを特色ある教育活動の推進と捉え、ESDの実践を通して計画を立てる力、多面的、総合的に考えるの力の育成を目標とした。

具体的には、食農教育、家庭や地域との連携活動・健康活動の充実を柱に、①栽培農園に係わる活動、②地域ボランティアとの協働に係わる教育、③自分の健康に係わる学習を行った。

① 栽培農園に係わる活動

下条小学校では、学校の近くに畑を借りて毎年野菜を植えている。その名も「すくすく下条っ子農園」。春夏には枝豆、タマネギ、ジャガイモなど、秋冬にはサツマイモ、ダイコン、キャベツなどを収穫した。これらは各学年の縦割りの校友グループが、種や苗から大事に育てた。特に5、6年生が1年生に

植え方の方法を親切に教える姿はほほえましいものがある。また学校の教材園でもそれぞれの学年ごと夏野菜、冬野菜を植えている。そして、4月から育て、収穫した野菜を使って家の人と協力してメニューを考え、下条産弁当の日は、野菜を洗ったり、切ったり、炒めたりとお手伝いをして自分のお弁当を作る。また、これらの野菜は6年生の調理実習「下条産給食」の食材としても使われる。今年も下条の子は、育てる喜び、食べる楽しみを体感することで心と体を育んだ。

② 地域ボランティアとの協働に係わる教育

5月下旬、すばらしい五月晴れの中、「愛情つまったどうまい下条米を作ろう！」と、5年生が「きらきら豊作水田」で、代掻きや田植えを行った。足で土の感触を楽しみながら土をほぐしたり、苗を一本一本ていねいに線に沿って植えたりした。農業指導者の松井茂樹さんや水土里げじょうの方々にはもみ蒔きからスガイ作り、稲刈りまでご指導いただいた。そして、「どうまい下条米」を収穫し、水土里げじょうの方々を招待してみんなで会食する「米作り感謝の会」を1月下旬に行った。一連の活動を通して感謝の心を育んだ。

③ 自分の健康に係わる学習

児童が主体となり、6月には「歯から健康！元気な下条っ子 part 3～強い歯を作ろう～」、1月には「歯と口の健康を守ることができる下条っ子を目ざして」をテーマに、学校保健委員会を開催した。全校みんなで自分の健康に対する意識を高め、生活習慣を見直すきっかけとした。また「保健・栄養短学活・元気タイム年間計画」を金曜日の朝活動で実践する中で、学年の発達段階に沿ったものへと修正した。



①の写真（枝豆収穫）



①の写真（下条産弁当の調理）



②の写真（田植え）



③の写真（学校保健委員会）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

図書室資料として ・「料理」「野菜」「食育」「米」関係の書籍 ・「人の体」関係の書籍
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ・ 下条小教育計画から食農に関する部分を洗い出し、教科、道徳、給食指導、栄養指導、保健年間計画と関連づけて食農教育単元を作成する。それぞれの単元がより効果的なものとなるよう指導方法や学習計画を練り、「食農教育計画」として位置づける。
- ・ 農業体験活動をもとに、各教科等で得た知識や技能を活用し、問題解決的学習や教科横断的な学習に問題意識をもって取り組める児童の育成を図る。
- ・ 「保健・栄養短学活・元気タイム年間計画」を金曜日の朝活動で実践する中で、学年の発達段階に沿ったものへと修正する。効果的な資料の作成・集積と児童の記録を累積する。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

畑の土作りについては、学校関係では四役を中心として、また、地域教育ボランティアの力を借りて耕したり、畝を作ったり、マルチをかけたりしている。肥料や苗、種の購入費用は「特色ある学校づくり」の予算を有効活用している。教職員が14人しかいないので、全員で協力してすべての教育活動に取り組んでいる。児童は校友グループ（縦割り班）で、高学年が低学年と一緒に活動する。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価として、教職員による平成29年度教育活動評価①（4段階評価）②（自由記述）、それを受けて教育活動検討会を行い来年度への指針とした。特に大きな問題点、変更点はなかった。また児童・保護者による学校教育アンケートも実施した。食農に関する肯定率はそれぞれ90%近かった。

外部評価として、学校評議員による学校関係者評価を行った。そこでは農業活動に対する段取りの悪さを指摘されたので、来年度は改善していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ユネスコスクール豊橋大会において、本校での取り組みをB紙にまとめ、展示した。今まで行ってきた本校の特色ある教育活動(食農・協働・健康)が、改めてESD活動の視点で見直しができ、社会に開かれた教育課程であると再認識できた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域の水土里げじょうの方々との協働。もみ蒔きからスガイ作り、稲刈りまでご指導いただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特に交流はしていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

食農教育の実践の場は、学校だけではなく家庭や地域にもある。児童は米作りや野菜作りを行うことで、家庭との関わりが深まり、自分の住んでいる地域を再認識することにつながった。地域ボランティアとの関わりでは、地域の人々の農業にかける思いに触れ、地域への愛着や食への感謝の気持ちが育まれた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も食農教育、家庭や地域との連携活動・健康活動の充実を柱に、①栽培農園に係わる活動、②地域ボランティアとの協働に係わる教育、③自分の健康に係わる学習を行う予定である。

- ① 全学年を対象に、「すくすく下条っ子農園」では夏野菜としてタマネギ・ジャガイモ等を、冬野菜としてキャベツ・ニンジン・ダイコン等を育てる。学校の教材園では学年ごとラッカセイ・ダイズ・キュウリ等を育てる。とれた野菜は下条産弁当や下条産給食として食する予定である。また、下条っ子フェスティバルの時に食される豚汁の食材にもなる予定である。
- ② 5年生を対象に、農業指導者の松井茂樹さんや水土里げじょうの方々と共に「きらきら豊作水田」で米作りを行う予定である。
- ③ 「保健・栄養短学活・元気タイム年間計画」を金曜日の朝活動で実践する。また、基本的な生活習慣の確立を目ざして、学校保健委員会を年二回開催する予定である。